

## 知・技の創造

ものづくりの大学発

▷20◁

ものづくりの大学製造学科では「誰もが働きやすい工場」は、ものづくりに関わる企業、さまざまな技術の研究と指導を行ってまいります。製造や鍛造、機械加工などの金属加工の技術から、機械工学・設計・評価・計測技術、さらに制御・情報、生体工学などのさまざまな研究に取り組んでまいります。われわれの対象とするものづくりは、小さな文房具や医療機器からロボット・自動車・ロボットに渡りますが、私の研究室でつくりたいものは、合理的な競争力のあるモノづくり

くひを手に入れることができないと考えています。とつじたら「近いモノ」がでるのか、キーワードは「強い現場」です。当研究室では「強い現場」への研究をしています。今日、圧倒的に安い海外の労働費や、関税対策、為替相場の変動等の環境変化により、日本ものづくりの相対的競争力低下や、産業空洞化懸念が言われる中、豊田開発で

今日、圧倒的に安い海外の労働費や、関税対策、為替相場の変動等の環境変化により、日本ものづくりの相対的競争力低下や、産業空洞化懸念が言われる中、豊田開発で

競争力のある真に強いものづくりの現場をいかにつくるか、実践を通し追求し研究し

### 小塚高史 製造学科教授

## 強い現場をつくる研究



北見工業大学機械工学科卒業、トヨタ自動車株式会社明知工場製造部門・生産技術部門で生産ラインの設計・運営・改善に取り組む。2015年より現職。生産管理(トヨタ生産方式)が専門。

かつてメイド・イン・ジャパンは高品質でリーズナブルな商品を生み出し、ものづくりの日本力を象徴する言葉でした。かつてメイド・イン・ジャパンは高品質でリーズナブルな商品を生み出し、ものづくりの日本力を象徴する言葉でした。

「変動に強い・機動力ある」「自律的に改善できる」「現場に取る組んでいきます。」「工場レイアウトの研究」同じ製品をつくりたい。工場や流通のフィールドで現地・現物の改善活動から生まれた考えです。私たちが学校を飛び出し、地元企業殿の実際の現場をフィールドに、研究活動をさせていたのです。生産現場はわれわれにとっても家の山、宝探しをしながら研究を深め、学生たちとともに成長できれば何よりです。しかし簡単にムタと言っても、漠然と見ているだけでは何も見えては来ません。ムタを見えるようにする工夫、現場で活躍できるエンジニアを育てる「人づくり」がすべて改善に至るハイテア出しを大事だと思っています。

# 埼玉経済

企業、団体、商店街などの話題や情報をお寄せください  
TEL 048-795-9161 FAX 048-653-9040  
keizai@saitama-np.co.jp